学校番号	122

平成31年度　　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次(普通科)
使用教科書	「高校生の美術１」　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・幅広い方向からモノ作りの面白さを伝えるため、表現ではデッサン・色彩・構成・材料や用具の　生かし方などの技能を指導するとともに、意図に応じた多様な表現方法の工夫を行っている。
・鑑賞では、他者の作品を鑑賞し意見を交換することで、作者の心情や意図と表現の工夫を理解し、　美術への関心を持たせるよう指導している。

２　学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創作活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創作活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、しっかりとした意図で表現する。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を工夫している。	鑑賞を通して、美術作品などの表現手段や技法などを理解し、その背景も含めて良さを味わおうとする。
評価方法	制作の様子、学習活動からの関心、意欲、作品への取り組み	制作への準備、学習活動からの関心、意欲、制作途中の作品評価	創意工夫、学習活動からの関心、意欲、制作途中の作品評価	発言・質問内容、学習活動からの制作意欲、自身のこだわり、作品評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学 期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1学期	素描基礎	【絵画】 制作 形の捉え方やプロポーションを理解し、自分の手をモチーフにデッサンする。	○	○	○	○	a:鉛筆の多様な表現に関心を持ち、鉛筆での制作に意欲を高めている。。 b:モチーフを良く観察し、構想を練って制作できている。 c:微妙な明暗の変化や立体物の量感を表現できる技術が養えた。 d:形の捉え方や鉛筆の扱い方、明暗による表現を理解できている。	学習活動からの関心・意欲・態度 作品評価
2学期	色彩基礎	【デザイン】 デッサン モチーフである紙コップをデッサンする。 ワークシート 画面区分による感じ方、伝わり方(構成)を学ぶ 制作 モチーフを色彩分割し鉛筆で着色させ、無彩色の作品を制作する。 その無彩色の作品と明暗が同じ有彩色の色を絵の具で作り、着色することで、色での立体感の出し方や色遠近の技術を学ぶ。	○	○	○	○	a:絵の具の多様な表現に関心を持ち、絵の具での制作に意欲を高めている。 b:想像力を働かせ、構成や配色に工夫ができている。 c:明度、彩度を考えた色を作り、はみ出ず、ムラなく、塗ることができる。 d:配色での立体的は見せ方や色遠近を理解できている。	学習活動からの関心・意欲・態度 作品評価 鑑賞レポート
3学期	立体基礎	【立体】 アイデアスケッチ 制作したい形の展開図を描く。 制作 正立方体を二つに分割した形をケント紙で作り、その二つをくっつけ魅力的な立体物を作る。 立体の基礎、モノが建つ原理を理解する。	○	○	○	○	a:立体の多様な表現に関心を持ち、立体作品の制作に意欲を高めている。 b:立体の特徴を生かし、形体などを工夫して表現の構想を練っている。 c:意図に応じて材料や用具の特徴を生かし、表現方法を工夫して主題を追及して表現している。 d:素材の特徴や立体作品の魅力を理解している。	学習活動からの関心・意欲・態度・創意工夫 作品評価

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力　c:創造的な技能　d:鑑賞の能力
※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	122

平成31年度　　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	2年次（体育科）
使用教科書	「高校生の美術１」　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・幅広い方向からモノ作りの面白さを伝えるため、表現ではデッサン・色彩・構成・材料や用具の　生かし方などの技能を指導するとともに、意図に応じた多様な表現方法の工夫を行っている。
・鑑賞では、他者の作品を鑑賞し意見を交換することで、作者の心情や意図と表現の工夫を理解し、　美術への関心を持たせるよう指導している。

２　学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創作活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創作活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、しっかりとした意図で表現する。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を工夫している。	鑑賞を通して、美術作品などの表現手段や技法などを理解し、その背景も含めて良さを味わおうとする。
評価方法	制作の様子、学習活動からの関心、意欲、作品への取り組み	制作への準備、学習活動からの関心、意欲、制作途中の作品評価	創意工夫、学習活動からの関心、意欲、制作途中の作品評価	発言・質問内容、学習活動からの制作意欲、自身のこだわり、作品評価
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

４　学習の活動

学 期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1学期	素描基礎	【絵画】 制作 形の捉え方やプロポーションを理解し、自分の手をモチーフにデッサンする。	○	○	○	○	a:鉛筆の多様な表現に関心を持ち、鉛筆での制作に意欲を高めている。。 b:モチーフを良く観察し、構想を練って制作できている。 c:微妙な明暗の変化や立体物の量感を表現できる技術が養えた。 d:形の捉え方や鉛筆の扱い方、明暗による表現を理解できている。	学習活動からの関心・意欲・態度 作品評価
2学期	色彩基礎	【デザイン】 デッサン モチーフである紙コップをデッサンする。 ワークシート 画面区分による感じ方、伝わり方(構成)を学ぶ 制作 モチーフを色彩分割し鉛筆で着色させ、無彩色の作品を制作する。 その無彩色の作品と明暗が同じ有彩色の色を絵の具で作り、着色することで、色での立体感の出し方や色遠近の技術を学ぶ。	○	○	○	○	a:絵の具の多様な表現に関心を持ち、絵の具での制作に意欲を高めている。 b:想像力を働かせ、構成や配色に工夫ができている。 c:明度、彩度を考えた色を作り、はみ出ず、ムラなく、塗ることができる。 d:配色での立体的は見せ方や色遠近を理解できている。	学習活動からの関心・意欲・態度 作品評価 鑑賞レポート
3学期	立体基礎	【立体】 アイデアスケッチ 制作したい形の展開図を描く。 制作 正立方体を二つに分割した形をケント紙で作り、その二つをくっつけ魅力的な立体物を作る。 立体の基礎、モノが建つ原理を理解する。	○	○	○	○	a:立体の多様な表現に関心を持ち、立体作品の制作に意欲を高めている。 b:立体の特徴を生かし、形体などを工夫して表現の構想を練っている。 c:意図に応じて材料や用具の特徴を生かし、表現方法を工夫して主題を追及して表現している。 d:素材の特徴や立体作品の魅力を理解している。	学習活動からの関心・意欲・態度・創意工夫 作品評価

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力　c:創造的な技能　d:鑑賞の能力
※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。